

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

事業の概要

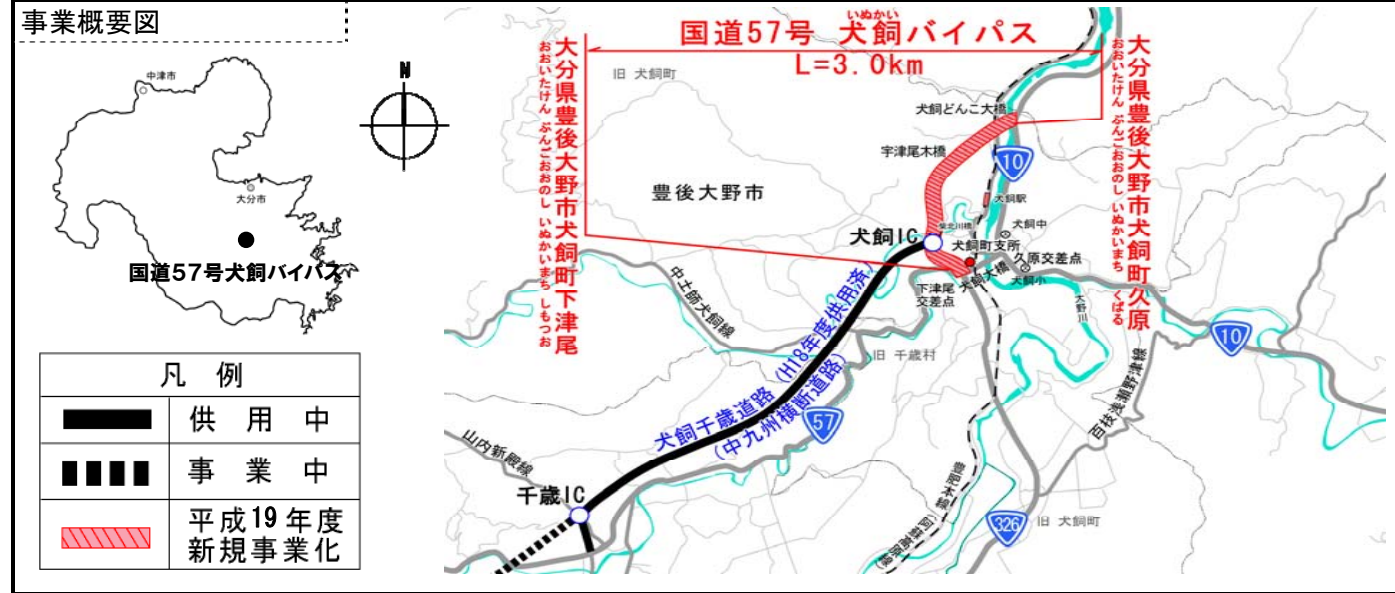
担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名	一般国道57号 犬飼バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：大分県豊後大野市犬飼町下津尾 至：大分県豊後大野市犬飼町久原		延長	3.0 km	

事業概要
国道57号犬飼バイパスは、東九州地域の動脈である国道10号と中九州地域を横断する国道57号、さらに延岡方面に至る国道326号を結ぶ重要な幹線道路であり、慢性的交通渋滞の解消、被災時の安全性向上に寄与することを目的として、昭和63年に事業化され、平成16年度に暫定2車線で供用されている。
また、犬飼バイパス沿線の豊後大野市は235万人/年、隣接する竹田市は440万人/年の観光入込客数を有する大分県を代表する観光地であるため、休日交通も多い道路であり、地域観光の活性化に資する道路である。

事業の目的、必要性
近年、本路線に直結している中九州横断道路や国道326号等の周辺道路の整備に伴い、交通量の伸びが顕著でバイパスとしての機能が低下しているため、交通需要に対応した交通容量を確保することにより、中九州横断道路と一体となった円滑な道路ネットワークの形成が必要である。
また、並行道路である国道10号は、一級河川大野川と急峻な地形に挟まれた低地となっており、平成17年の全面通行止めをはじめ、H16年以降で2回大野川氾濫のため冠水による通行規制が発生している。このため、国道10号被災時の代替道路としての機能強化による安全性・信頼性向上のためにも、早期整備が必要である。

全体事業費	4.1 億円	計画交通量	8,800台/日～23,600台/日
-------	--------	-------	--------------------



関係する地方公共団体等の意見

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている
 用地買収は完了しており、円滑な事業執行の環境が整っている

費用対便益	全体事業費 B/C	1.7	総費用：46億円 （事業費：34億円 維持管理費：13億円）	総便益：79億円 （走行時間短縮便益：70億円 走行費用減少便益：2.5億円 交通事故減少便益：5.7億円）	基準年 平成19年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C:1.5 (交通量 -10%)	B/C:1.9 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C:1.6 (事業費 +10%)	B/C:1.8 (事業費 -10%)	
事業期間変動	B/C:1.6 (事業期間 +20%)	B/C:1.8 (事業期間 -20%)			

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○
事故対策		○	事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】 単路部 約239件/億台キロ（現況） [大分県平均比：約4倍] 交差点部 約67件/億台キロ（現況） [大分県平均比：約1倍] 【大分県平均：単路部：36件/億台キロ 交差点部：68件/億台キロ】 【その他特徴】
社会全体への影響	歩行空間	-	注目すべき影響はない。
	住民生活	○	高次医療施設へのアクセス向上に寄与する。
	地域経済	○	広域的な道路ネットワークの形成により、農産品の安定供給が確保されるとともに、農業活動の活性化に寄与する。
	災害	○	災害時の代替路が強化される。 (路面冠水による通行規制回数はH16年以降2回、11時間)
	環境	-	注目すべき影響はない。
地域社会	○	本バイパスは、休日交通が多い道路でもあり、観光の促進による交流人口の拡大が期待される。 (沿線の豊後大野市は235万人/年、隣接する竹田市は440万人/年の観光入込客数を有する大分県を代表する観光地であり、中九州横断道路と一体となった円滑な道路ネットワークの形成により地域の観光活性化に貢献する。)	
事業実施環境	○	中九州横断自動車道との一体的な整備を行い、広域的な道路ネットワークを構築。	

採択の理由
 費用対便益は、1.7と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件は確認できる。
 この道路整備により現況の交通混雑の緩和、道路の信頼性や走行性、災害時の備えならびに、沿線地域の社会文化経済活動が確保され、その整備効果は高いものと判断される。
 以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。